



[FUKUOKA]

老舗酒販店での角打ちを拠点に JR古賀駅周辺の美しい海際や文化を巡る

「鉄道開業」を機に発展した
商店街のシンボル酒店

九州の玄関口と呼ばれるJR博多駅から小倉方面へ快速電車で揺られ約20分。古賀駅に降り立ち、西口にある「ノミヤマ酒販」へ向かう。創業は明治21年(1888年)。古賀駅の開業2年前にこの地で商売を始めた。

「先祖は唐津街道の宿場町があった(古賀市南西部の)青柳地区に住んでいたと聞いています。九州鉄道が博多から赤間まで開通する際に、青柳を経由すると遠回りになることから、博多と赤間を最短距離で結んだ天神地区に古賀駅が開設されることになった。それで許山(のみやま)家も、駅の開業に伴って引っ越しをしたそうです」と話すのは、6代目の許山浩平さんだ。

駅ができる前の天神地区はほとんどが松林だったが、古賀駅の開設以降、商店街が生まれ、一時は映画館も出来てにぎわいを見せたものの、昭和の終わりがくると国道3号沿いに大型商業施設が並び、高齢化や後継者不足も相まって商店街は次第に衰退していった。

許山さんが店を継いだのは2018年のこと。先代までは99%が飲食店向けの卸業で、ディスプレイ商品を中心に扱っていたが、店舗を改装し、「お酒を愉しむきっかけを提供する」ことをコンセプトに、主に日本酒・焼酎・ナチュラルワインを扱うセレクトショップに転換した。「角打ち」で提供する酒の品ぞろえも大きく変わり、福岡市内からも飲食店の店主や酒好きたちが訪れるようになった。



古賀海岸。潮が良ければ風によって作られた風紋が見られる。沖合には『日本書紀』『万葉集』にも記されている新宮町の相島(あいのしま)が見える

店のファンを古賀ファンに 来店客に+αの街案内

「引き継いでからは、SNSなどでも日本酒・焼酎・ワインをバランスよく発信してきたつもりですが、当時は日本酒や自然派ワインがアンテナに引かれる人が大半でした。けれど、コロナ禍や円安を背景に、蒸留酒で保存性が高く、食中酒としても飲みやすい焼酎が注目を集め始めました。興味を持ってくれる人たちが徐々に増えていくのを、肌で感じますね」

許山さんは積極的に蔵元へ足を運び、時には蔵人を招いた角打ちイベントを行うなど、蔵元と飲み手や飲食店をつなぐ役割も果たしている。

焼酎談義でおなかがいっぱいになった。許山さんから聞いた「NEW PUBLIC SALOON」へ移動。駅の東側で約15年間、弁当店を営んでいた崎山龍さんがこの5月に開いたお持ち帰り弁当と昼飲み推しの立ち飲み酒場。弁当は店内でもいただける利便性の高い店だ。

「この場所への移転と業態変更を決めたのは、許山さんたちの影響が大きいですね。30代の人たちが中心となってこの商店街に活気を取り戻そうとしている活動に共感しました」と崎山さんは言う。空腹も満たされ、次は古賀

海岸へと足を運んでみる。商店街からは徒歩10分ほどの距離だ。約2kmにわたる松原、永遠と続く白い砂浜、透明度の高い海の美しさに思わず息をのむ。のんびりと散策を楽しんでみると、潮騒橋付近で夕日が沈む方向と時刻が一目でわかる。「夕日風景時計」を見つけた。波の音を聞きながら女界灘に沈む夕日を眺める。

肌寒くなってきたので商店街方面に戻り、再び「ノミヤマ酒販」の角打ちへ。木工作家が彫った名物のワイン樽にグラスを置いてお薦めの焼酎を飲んでみると、好みの銘柄に出合った。「この焼酎が好きなら、すぐそこのお店に行ってみてください」古賀の夜はまだ始まったばかりだ。



JR古賀駅から徒歩約30秒、角打ちと売り場の出入り口がそれぞれあり、風情あるたたずまいが130年以上の歴史を感じさせる

ノミヤマ酒販
〒811-3101
福岡県古賀市天神1-8-40
TEL.092-942-2061
10:00~19:00
日・祝休 酒類専



佐賀県を拠点に活躍する木工作家・山下美太郎の彫刻作品「モンストレーション」で完成したワイン樽が存在感を放つ



古賀本町商店街の裏通り。2022年2月、許山さんは志を共にする仲間とともに商店街活性化のための会社を設立。新たな風を吹き込む活動にも力を注ぐ



「NEW PUBLIC SALOON」月1食の営業は11~16時、土曜のみ夜も営業。立ち飲みならはのびのび楽しめる。福岡県古賀市天神1-2-6
TEL.090-39006-3442



さて、何を飲もうかな

おなかすいたよな？
まだ1杯

